成果の説明書

(氏名)　佐藤　彰彦	(学部)　地域政策学部

1　重要事項

（1）教育活動

①授業など

・講義では、「地域社会学」「コミュニティ振興論」「社会学」を担当した（着任初年のため、演習は始動していない）。

・また、「グループ研究」において、受講生に高崎市の政策課題を考えてもらい、彼らが自ら設定した 3 つのテーマ（中山間地の過疎、中心市街地活性化、市政へのパブリックインボルブメント）ごとに共同調査・研究を行い、その成果を政策提言というかたちでまとめた。

・毎回の講義で受講生にコメントシートを記入してもらい、共通して理解が不足している箇所や疑問点などにかんし、次回以降の講義でフィードバックするよう努めた。

②その他

・三扇祭にて開催された地域政策学部プレゼンテーション大会の審査員を務めた。

・佐藤公俊ゼミ・斉藤康輝ゼミ合同で行われたディベート大会のジャッジを務めた。

（2）研究活動

①書籍・論文など

・(共著)『原発避難者の声を聞く』岩波ブックレット

・「被災地・福島の市民活動」町村敬志・佐藤圭一編『脱原発をめざす市民活動』新曜社

・(研究報告書・編著)「相双地方地域課題調査研究――福島県相双地方の転入者が活躍する新たな地域社会の再構築」超学際的研究機構

・地域社会学会賞論文奨励賞受賞。「原発避難者を取り巻く問題の構造――タウンミーティング事業の取組・支援活動からみえてきたこと」『社会学評論』、64(3):439-459.

②報告・発表など

・関西社会学会大会で個別研究報告をおこなった。

・東北社会学会大会で個別研究報告をおこなった。

③その他研究活動

・科研費基盤 B ならびに基盤 C の研究分担者として研究会に参加し研究活動を遂行した。

・法政大学サスティナビリティ研究会へ参加した。

2　その他の事項

（1）社会貢献

①学会関係

・地域社会学会研究委員会震災特別委員会メンバーとして、社会学 4 学会合同研究・交流集会の実行委員を務めた。具体的には、2016 年 3 月に岩手県沿岸部の津波被災地を中心とした視察および視察後の合同研究会を企画・運営した。

②委員会など

・福島県地域課題調査研究事業（相双地域）検討委員会　座長

・福島市商業コミュニティ助成事業採択委員会　座長

・チャレンジふくしま若者リーダーまちづくり事業・会津チーム　コーディネーター

③その他の社会活動など

・全国若手市議会議員の会にて講演をおこなった。

・高崎市中央公民館講座にて、市内高齢者を対象とした研修をおこなった。
・ラジオ高崎と本学との連携事業「高経ラジオゼミナール」に出演し、「福島第一原発事故と地域社会」をテーマに講義をおこなった。
・原発事故災害にともない避難を強いられた子どもたちが故郷について学ぶことを通じて「生きる力」（将来的な帰還是非の判断能力を含む）を身につけることを目的として、福島県富岡町の中高生が地元の長老に対しておこなう聞き書き事業「おせっぺとみおか」を実施した。
・福島県富岡町の NPO 団体が主催する住民活動「タウンミーティング」の企画・運営にかかわり、2 月には「タウンミーティング in 高崎」を開催した。
・福島第一原発事故から 5 年の節目に、研究者・メディア関係者を集めたシンポジウムを開催し（企画・運営および演者として参加）、原発事故災害の実態と復興政策の今後について広く情報発信をおこなった（NHK、河北新報、福島民報などで報道）。

3　次年度以降の計画・抱負

（1）教育活動

・演習 I が始動するため、ゼミ生には学問の面白さを学んでもらい、＜研究＞の基本的な作法を学びながら、主体的な調査・研究ができるよう指導・活動する。
・講義のなかで、アクティブ・ラーニングの可能性について検討・導入に努める。

（2）研究活動

・2016 年度から科研費基盤 B「福島原発事故後の復興ならびに社会再編過程に関する行政社会学的領域横断研究」の代表者として、学際的な研究者からなる研究会運営を円滑に進めていく。（初年度は 2 年目以降の研究成果発表に備えた基本的な研究に取り組んでいく。）

（3）学内活動

・教務委員の活動を通じて本学の教育活動の向上に貢献できるよう努める。
・プレゼミ、ゼミの充実に努める。
・ピアレビューへの参加を通して、教育方法の改善・発展に努める。